

学校から医療機関への学習に関する情報提供票

◆◆◆学校の先生方へ◆◆◆
「情報提供票の活用について」や「Q & A」をお読みいただき、ご活用ください。

記入年月日	年 月 日
児童生徒名	記入例 ○○ ○○
学校・学年・組	小 学校 ○ 年 ○ 組
記入者名	○○ ○○
	立場（担任、支援学級担任、特コ 等） 特別支援教育コーディネーター

※情報提供の内容については、必ず保護者の同意を得てください。

1 学習の様子について

(1) 当てはまる内容にすべて「○」を記入(学年相応でない項目には「-」を入れる)

読み	-	ひらがなが読めない
	-	カタカナが読めない
		漢字が読めない
		たどり読み、逐次読みをしている (就学後、たどり読みをしていた時期があった)
		国語の読解問題ができない
書き	○	読みにくい字を書く
	○	漢字が覚えられない
		黒板を書き写すのが遅い
		作文が書けない
計算 算数 数学		単位がわからない
		桁がずれる
		計算ができない・指で計算をする
		式の理解が難しい
	○	図形の問題が苦手
	○	表やグラフの問題が理解できない
聞く		文章問題が苦手
		聞き間違いや聞き漏らしが多い
		相手の言うことが理解できない
話す		筋道を立てて話せない
		言いたいことを整理して言葉にできない
		物の名前など、知っているのに言葉が出てこない
		助詞や接続詞使って話すのが難しい
		動詞や形容詞を適切に使えない

「漢字を覚えにくい」といった曖昧で主観的な表現を避け、本人の訴えや、観察からわかる事実や経緯等を記すようにします。

(2) その他、学習について本人が困っていること

「練習した漢字がテストで正しく書けない」との訴えが本人からあった。担任からは、漢字練習の際に、本人が誤って漢字を書いていると報告があった。本人が漢字の練習をしている様子を○○（教育相談担当者等）が観察したところ、黒板に書かれた文字を手元のノートに誤って書き写すことが多く、本人が誤って書き写していることに気付いていない様子であった。

※枠は必要に応じて広げてください。

2 本人の学習への取組の様子や勉強に対する言動について

「漢字のテストで高い点をとりたい」という気持ちがあり、毎日家で漢字練習に取り組んでいる。漢字の学習以外にも他の教科等の学習で「もっと知りたい」「できるようになりたい」という気持ちを言葉で表すことがしばしばある。

1で記した内容に関わる様子に加えて、学校での学習に対する関心や意欲、理解の様子等特徴的なことを記すようにします。

3 学校での対応について

(1) 読み書き計算の困難さに関わっている機関や専門家と、その所見

□□学校教育相談担当○○教諭（特別支援教育士）。見え方や記憶にかかわる特性ゆえ、書き誤りが生じている可能性があるため、観察後に助言があった。

記載する機関や氏名、役職、資格等は必ず許諾を得た上で記載してください。

(2) 行ってきた・行っている指導・支援

黒板に書かれていることを写しやすい座席を本人と相談して決めている。授業中に担任が本人の傍へ行き、書き誤りがないか都度確かめている。

(3) 実施している指導・支援の効果

書き誤りを担任が指摘する前に本人自身で書き誤りに気付くことはないが、本人が確認を求めるようになってきており、都度、担任が指摘するようにしている。

4 その他、気になっていること

指摘すること以外に友達同士で確認させることも試したが、子ども同士の関係性が不十分な場合もあり、子ども同士で指摘しあうことで子ども同士が適切な関係を築きにくくなることもあり、続けてはいない。

実施済みの調査や検査等があれば「○」を記入

実施済検査 (○をする)	○	実態把握のためのチェックシート(「適切な学びの場ガイドライン」より)
		LD判断のための調査票(LDI-R)
		WISC、K-ABC、WAVES、STRAW、URAWSS等の検査結果

保護者が持参できる資料がありましたら「○」を記入

保護者 持参資料	○	NRT等の学力検査
		各種検査結果
	○	テスト、ノート、日記、通知表等